

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

たつぷく だより

No. 13

編集発行 平成 22 年 3 月 1 日
田原福祉専門学校同窓会
会長 松原 宣子



総会に集まった笑顔

「退任 1 年、今、思うこと」



前副校長
小澤 港

「受身の人生には燃えるような人生はない」とはさわやか福祉財団の堀田力先生の言葉です。最近、この言葉を地で行くように、自分の人生の主人公として主体的に生きることの喜びを得た人との出会いがありました。この人は、会社人間として生き、定年を迎え、おずおずと入ったボランティアの世界。そこで自分の隠れた能力を発揮する役割を見つけ、人に役立つ快感を体感し、生き方の転換を語る表情は若者のように輝き、エネルギーが溢れんばかりでした。

「主体性の小澤」を自負してきた私にとって、悔いと反省の出会いでしたが、自分らしく生きることへの指標にもなりました。長く仕事をしてきた今、心からそう思っています。こんな出会いも福祉の現場ならでのこと、退任後、軽気持で覗いた福祉の現場は刺激と学びの両方を満たしてくれます。

元教員として、卒業生が成長していく姿を見ることができるとも福祉の現場。

職場 訪問 蔵王苑

—今回は身体障害者施設 蔵王苑で働いている一期生の佐藤三智子さんと林 正純さん、八期生の仲谷光平さん、十期生の田村香織さんに集まっていたいただきました。

—蔵王苑ができて十二年目と聞きましたが、卒業と同時に就職した一期生の男性職員がほぼ残っているそうですね。介護職は転職が多い中で素晴らしい事だと思いい、今日はお話しを伺いたいと思います。

—では早速、一期生の林君、長く勤められた理由を教えてくださいませんか？

林 — ……いい仲間恵まれているので (笑)

一同 — (笑)

—いい仲間、そうですね (笑)

一期生の男性は何人いますか？

林 — 最初は五人いましたが、一人が退職し、一人は異動があったので蔵王苑には三人います。

林 — 女性も合わせたら (一期生は) 十四、五人は最初にいたかな。

—その中でこの十二年の間に何か築かれたものがあると思うんですけど？

林 — 築いたもの……。

林 — 改めて聞かれると何か緊張しちゃうよね。(笑)

林 — 長く一緒に働いてきてるので、そのへんで信頼関係が深まってきたとは思いますが。それが辞めていく人が少なかつたことに繋がったのかなあ。

— やっぱ仲間がいるってことは大きな原動力になるんですね。続く卒業生も入ってきているんですね？

林 — 毎年一人か二人は。

一同 — 割と続いている？

林 — 女性の場合は結婚・妊娠を期に辞めちゃう事が多いですね。でも、男性は続いているかな。

— 仕事が続くってことは、いい先輩に出会えたってことかしら？

林 — あれ、誘導してるかな (笑)

林 — そうですね。まあ、あの、仕事は優しく丁寧に教えてもらえるので……やりやすいです、はい。

— (先輩を目の前にして) 言いづらいいところもあるでしょうけど (笑)

林 — 言えよ、本当のこと。

一同 — (笑)

— 私たち (一期生) が学校で習った介護と、今現在やってる介護とは随分変わったよね。そういうところの勉強会には積極的に行ってらるんですか？

林 — 定期的なものは施設からできただけ介護職員を研修に出すっていう方向でやっています。最初の頃は主任が行ってただけけど、今は現場の職員にたくさん出してもらっています。

— (一同を見て) 勉強会に行かれたことはありますか？

一同 — あります。

— 勉強会に行かせてくれる施設ってありがたいですね。

— 就職して戸惑ったことはなかったですか？

林 — 初めはもう分からないことだらけで……

— 介護の仕方というよりも “人との関係” をつくるのがすごい難しく感じました。

— 蔵王苑の入居者は年齢が若い方もいるんですね？

林 — 平均が六十歳で若い方は三十代かな。

— 自分と同世代の方に接するからこそ難しさがありますか？

林 — 入居者の中には心に葛藤を抱えている方もいて、そういう方は強い言葉が出てしまうこともあり、それに対してどう返したらいいのか戸惑うことはあります。

林 — 障害者としてだけ見てしまうと、そうではないということが分かっていてもとっさの対応とか考え込

前ページから

一所懸命というより本気で働く姿に感動すら覚えます。時には苦痛で面白くもないという声も聞きますが、少なくとも人間に関わる仕事というものは喜びとともになければ、相手にとって不幸ではないかと思えます。

何事も、面白く楽しくできるかは本人の取り組み姿勢次第、与えられたことをするだけでなく、自分で創っていく、つまり追いかけられるのではなく、追いかけていけば、仕事も人生も楽しいこと請け合い。そんなことをつくづく思う昨今です。



んでしまうこともあります。(入居者の) 年齢は関係なく難しさを覚えますね。

—うーん、そうですね。

⑤—そういえば実習先も障害者施設は少なかったね。行ったことある？

⑥—僕は重心(重症心身障害児施設)しかありません。

⑦—私も大人の方の、中途障害の方が多い施設は経験なかったけど：その中で頑張ってる(笑)

—その中で、後輩に指導する立場になってみてどうですか？

⑧—口で指導できることには限度があつて、伝えきれない部分はまず当事者同士に当たって考えてもらうようにしています。

⑨—口で教えるだけで分かるのであればそれに越したことはないけど、直接接してみても分かることもたくさんあると思うんです。

入居者も職員も一人一人違うので、まずは接してみてもらってます。なのであんまり教えとるっていう感覚はないですけど(笑)

—それじゃあこの十二年で自分としてはどれくらい成長したと思います？

⑩—成長してないかも…。

一同—笑

⑪—そんなことないよー(笑)何かあったときの対応の仕方とか。

⑫—まあ、対応力に関しては、一年目二年目の時よりは今の方が対応できると思うんですけど、入居者

も入れ替わりがあるので、新しい人が入ってくればその人との信頼関係を一から築かなきゃいけないし…

—積み重ねてきた経験で対応しやすくなったことはないですか？それに、二十代前半の独身だった頃と、家庭を持って三十代になった今とでは、働き方や責任感に違いがあると思うんだけど。

⑬—あんまり考えたことがないです(笑)

—きつと、自然にできてるってことなんだろうね。

⑭—それか、できてないまま、ここまで来ちゃったか…(笑)



一同—笑

⑮—経験値として、今のほうが二十代前半の頃と比べれば対応できる幅は広がったと思います。新しく入ってきた方に対してはそれなりにうち解ける時間は早くなったかもしれないですね。

—そうだねー。そういうのを聞くところから入ってくる人たちも十年後には自分もできるようなものかなっていう目標になるね。

田村さんは三年目ですね？三年目から見た十二年目の先輩をどう思う？

⑯—素晴らしいと思います。

⑰—ずーっと続けてる先輩がいるっていうのは心強いと思うし、たっぶく生だけに限らず相談しあえる雰囲気があるから、居心地はいいかなって思う。

⑱—うん、うん。

—そうだね。

—それでは最後に今の在校生に向けて、こういうところがすばらしいっていうメッセージを一言ずつお願いします。

⑲—全部が全部働きやすい職場とは限らないですが、自分に合った職場を見つけれられるといいと思います。それに、やっぱり人間相手なのでやりがいがあります。それは間違いないです。やって損はないし、もし転

職したとしても人生ではプラスの経験にはなるかな。

⑳—結婚して子どももいると、気持ちややりがいだけじゃ生きていけないですよ。介護全般に言えることだけど、給与面がね…。やりがいにプラス伴うものがないと福祉現場の現状として人は離れていっちゃうと思います。だからあまり勧められないんだけど、でも、だからこそ皆で盛り上げていかんと…とは思いますが。

—はい、じゃあ田村さん。三年目で仕事にも慣れてきて、下の後輩も入ってきてっていう立場からどうぞ。

㉑—三年経って慣れてきた分、いろんなことが見えてきちゃって、でも現状ではやりたくても出来ないこともあつて、結構苦しいこともあります。

—まあ、そういうジレンマのあるところが三年目か。

㉒—でもそういうところをフォローしてくれる先輩がいるので。

—だからやっぱり、たっぶくの先輩がいるから心強いというところで話をまとめて、インタビューを終わりたいと思います。貴重な時間をありがとうございました。

(インタビューアー・松原)

公開セミナー

「起業！自分たちの 暮らしたい場をつくらう」



本年度から、卒業生フォローアップ研修会と同窓会の共催で公開セミナーを開催することになりました。平成22年1月23日(土)に、本校の講堂にて開催したところ、30名弱の皆さんが参加してくれました。

いつか、自分達の手でサービスを提供したい！そんな夢をもちながら、介護現場で経験を重ねている皆さんのために、今回、施設等を立ち上げられた方々のお話を伺うこととしました。

第一部の活動報告では、ヘルパー科卒業生で、市内でデイサービスを立ち上げられた「デイサービスとしま」渡邊氏と、介護福祉学科を卒業し「デイサービス太陽の里天伯、デイサービス第二太陽」を立ち上げられた田野氏からのお話を伺いました。第二部では参加者の意見交換の場としました。

活動報告では、渡邊さんからは、御自身がヘルパーの講習を受けた後、特別養護老人ホームのパート等

を経て民家を借りて企業を立ち上げた経緯をお話いただきました。現在は菜園や体操、創作活動で手芸などをしたり、幅広く利用者さんが体験できるメニューを取り揃えています。利用者さんとかかわりの中で大切に考えている事も教えていただきました。



次に田野さんからは、自分が起業するまでの足取りとして、サラリーマンを経て将来独立(高齢者社会の分野で・・・)を考え、社会福祉士の勉強をした後に介護の専門学校へ入学をして、授業や実習で知識と技術を習得して夢を実現。

デイサービスを起業して七年。毎日楽しい。法人格の有限会社を設立し、経営安定の状況についてもご紹介いただけました。

デイサービスの楽しさと運営について、利用者さんの変化を楽しむに毎日賑やかに過ごされている様子がひしひしと伝わるお話でした。自立した生活を送る支援のために活躍されている様子には、参加者も共感したことでしよう。

第二部の意見交換会では、参加者の興味はシンシン。実際の資金の話から現場運営の内容まで幅広い質疑がなされ、活発に意見交換することができました。

今回は、在校生を始め、本校卒業生、ヘルパー科の卒業生など年齢的にも幅広く集まっていたくことができました。

参加者の皆さんの中には、小規模デイサービスならではのメリット、一人ひとりに寄り添う介護に興味を沸かした方、「自分にもできる!」と



勇気のみなきった方、将来の夢を確信した方など様々な想いを持って帰られたことでしよう。

今回のセミナーは、「起業!」をターゲットにしましたが、今後も引き続き、同窓生にも馴染みやすく、現場での悩み解決やスキルアップに役立つような内容のセミナーを開催したいと考えています。テーマ要望は、学校までお寄せ下さい。メールでも結構です。

(E-mail/scenmon@city.tahara.aichi.jp)

学校だより

●職員紹介●



(転出)

木村 由紀子

平成15年から

7年間、愛すべ

き「たつぷく」にお世話になりました。在校生や卒業生、教職員の皆さん、実習施設の方々から大変多くのことを学ばせていただき感謝の気持ちで一杯です。

自分の力不足を隠そうと精一杯虚勢を張っていた時期もありますが、次第に共に泣き、共に笑い、共に学び合うことができるようになり、とても充実した時間を過ごすことができました。

若い皆さんの二年間での成長は目覚しく、さらに社会人となり成長していく姿に触れる度に感動を覚えるとともに、やり甲斐を感じたものです。介護の仕事も同じように、大変ではありますが、相手の方から沢山の宝物を頂くことができる仕事ですよね。

皆さんは、これから何度か人生の岐路に立つことがあると思います。困難な時こそ成長のチャンスです。

自分を支えてくれている周囲の人に感謝しながら、選んだ道が最善の道であると考えられるよう、学び、考え、楽しみながら向かっていって欲しいと思います。そして介護福祉士として、人として成長し、ご活躍されるよう願っています。

今後は市役所の保健師業務(乳幼児健診など)で皆さんに会うことが楽しみです。どこにいても皆さんのことを応援しています。見かけた時には声をかけてください。お互いにそれぞれの場所で精一杯頑張ります。よう。(注:頑張りすぎず、自分を大切にね。)



(転出)

川口 淳

平成17年10月

から平成21年3

月まで、田原福祉専門学校でお世話になり、現在は都市建設部街づくり推進課に勤務しています。

たつぷくでは、学生課職員として、学生たちを少しでもサポート出来るよう業務をおこなっていましたが、そのなかで市役所の業務ではあまり経験できないたくさんの事を学ばせていただきました。

また、入学式や地元のお祭り、たつぷく祭・卒業式とさまざまな行事と一緒に行動した事は良い思い出

あると同時に、学生たちが成長していく姿を見て刺激を受けていました。

本当にたくさんの事を勉強させていただき、自分の中で大きな三年半だったと思います。ありがとうございました。

今後、介護の仕事はますます大切な仕事になっていくと思いますので、それを担う在校生、卒業生には信念を持って頑張ってくださいと思います。

●学校行事●

公開講座

平成21年12月19日(土)

『生命について考える』

～ホスピスの現場から～

講師・佐藤健氏

(独立行政法人国立病院機構

豊橋医療センター緩和ケア部長)

本年度の公開講座は、豊橋にあるホスピスで活躍されている佐藤先生をお招きし、ホスピスの歴史をはじめ、日本における現場のお話をさせていただきました。

痛みを和らげる治療方法や投薬の仕方についてご講演いただき、私達が知らなかったこと、誤解をしていた薬についての知識など分かりやす

くお話をいただきました。

実際の現場での患者さんや家族との関わりを通じたお話を聞いて、受講生アンケートでは、家族が痛みを抱えたまま亡くなったので、もっと早くにこの知識を得たかった、終末期の治療に関する知識を得ることができた、とても感動したなどの意見があり、参加して良かったと講座は大好評でした。

痛みの緩和、本人の意思、家族との接し方や時間の持ち方・・・様々なことを学ばせていただきました。本当に有難うございました。

平成22年度は、11月13日(土)に「老いの風景」の著者である渡辺哲雄さんをお招きします、皆さん是非ご参加ください。



同窓会総会を終えて

会長 松原 宣子

昨年、はじめての同窓会を開き、二十名ほどの卒業生が集まって頂けました。同窓会は二部方式で行い、一部は総会を行い、二部では小グループでの歓談を行いました。

お茶とお菓子を食べながら歓談をしてもらいました。歓談では同窓会の活動をどのような形で行なったらよいか、また、同窓会総会にどうしたら卒業生が集まっていただけかを話し合いました。



まず同窓会での活動の一環として、たつぶく祭に同窓会で出店することを決めました。というのもも学生数の減少で出店数が減ってしまいましたが、そこで、たつぶく祭の活気をだすためにも卒業生で応援したいと思いました。

出店するにあたり何を出すかというところで、さつま芋を作って大学芋にして売っていいこうと決まりました。今回は事務長さんのご協力を得て、さつま芋の栽培をして頂きました。さつま芋も順調に育ち十月に入って芋掘りをして大学芋の試作をしました。

ここまでは順調にいったのですが、折からのインフルエンザで、たつぶく祭が中止になったため、出店できなくなり残念でした。しかし今回いい体験ができ、来年またチャレンジしたいと思います。

そこで、今年は学校の近くに畑を借りてさつま芋の栽培を行いたいと思います。畑を耕して苗を植え十月の収穫を目指して行きたいと思います。それには多くのボランティアが必要です。苗を植える人、水やり、草むしり、芋ほりと段階に分けてお手伝いできる人を募集したいと思います。詳しい内容は学校のホームページに載せたいと思います。また、



直接、学校に問い合わせても結構です。

気軽に学校に立ち寄って頂けたらと思います。

そして、もうひとつの課題として同窓会にたくさん卒業生が集えるにはどうしたらよいかを考えていきたいと思います。同窓会以前は後援会総会が行われていました。しかし役員と数名の卒業生しか集まっていただけでした。総会の日程をたっぶくだよりに載せても参加者が増えませんでした。そこで、できるだけ多くの卒業生に情報を送るために各施設ごとに代表を決め、そこから卒業生に伝達できれば確実に伝えることができるのではないかと思います。そのためにも各施設ごとに連絡係になれる方を募集したいと思えます。卒業生も県内の多くの施設に就職しています。しかし同じ職場でたっぶくの卒業生であることを知らないというのを聞きました。皆さんは自分達の職場に何人の卒業生がいるかご存知でしょうか。また、これから卒業していくたっぶく生は、自分達が行く職場に何人の卒業生がいるのか知っていますか。同窓会を通して卒業生たちが知り合いになっていく架け橋になっていけるとよいのではないかと思います。



私が学校で習った介護技術は基本でした。現場に出て使う介護技術は応用です。年々新しい介護技術が出てきます。常に新しい技術の習得が必要となってきます。その新しい技術もアンテナを張っていないければ取り入れることができません。そのためにも同窓会を通じて、お互いを刺激し合いながら技術を高めていけるとよいのではないかと思います。

今年の同窓会は5月16日に開催します。一人でも多くの卒業生が参加できることを期待したいと思います。皆でワイワイガヤガヤと楽しみたいと思います。

お知らせ

同窓会総会

1.日時／平成22年5月16日(日)午前10時～
2.場所／田原福祉専門学校 講堂

たっぶく ティールーム



●オーナー 山下宏雄
●お客様(敬称略)
松原 宣子 伊藤 聖佳
岡 達也 氏原 匠

① 今回は、様々な年代の卒業生とお話をする予定でしたが、あいにく時間が合いませんでした。顔なじみのメンバーになってしまいました。が、新卒2人が揃いましたので、近況をきいてみましょう。

② 私は一般企業に勤めています。介護の仕事は中学生くらいの時から行おうと思い「たっぶく」に入学しましたが、もともと持病で腰が悪く、実習でさえも気を遣ってしまうのに、現場でやっていけるか心配でした。今の仕事は、知り合いが働いていたため考えた結果、就職しました。

③ 一体のことを考えてなんですね。他の面で考えることは無かったですか？

④ 給料の面も考えました。話を聞いて給料面で魅力があったのも確かです。

⑤ これから、機会があれば介護の仕事に行ってみたいですか？

⑥ せっかく学校で学んだので行ってみたいです。でも生活面から考えると「ちよっと。」と思ってしまっ。一人ならともかく、これから先のことを考えると、踏み切れなくて。

やる気だけではどうにもならない面もある。体をこわしてしまうこともあるし・・・

⑦ では、介護の職に就かれたもう一人は？

⑧ 現実問題ですが、二年生の時にどのような道に進もうか、とても悩みました。ただし、他の道に進んでも、この世の中、将来性があるとは限らないし。浅はかですが、介護の世界も昔の看護の世界みたいに待遇が改善されることを信じて、介護の道に進むことにしました。ですので民主党には期待しています。

⑨ やはり悩まれたんですね。看護の世界は、看護師が力を合わせて勝ち取ってきた面もありますね。介護も同じようになると良いですが。

⑩ そこまで気が回る人が少ないですよ。自分のことで精一杯の人が多いいと思います。でも、自分たちの未来のために、動いてゆかないといけませんよ。

⑪ そうですね。自分たちも頑張っていきたいが、高齢者に近づいているので出来ることに限界がある。そういう面で若い人たちには、もっと

もっと介護の世界をよくしてくれることを期待しています。

⑫ 人任せですねえ。自分たちで動くとしても限度があるので、理想としては、地域から介護職が出馬して政治の面からも大きなバックアップがあれば言うことが無いんですけれど。中々難しいことですね。

⑬ それは心強いですよ。

⑭ たっぶく卒業生で誰か手を挙げてくださいませんか。みんな応援しますけれど。

⑮ 待遇の面の悪口ばかりでるけれど、介護職の給料は介護保険が財源。払う時は、税金と同じように当たり前前に払いたくない。でも、貰うときには欲しい。駆け引きが難しいと思います。

⑯ 分かっていることだけれど、今の待遇があまりにもひどすぎる。一人での生活も大変なのに。もう少し水準を上げてくださらないかと。

⑰ 結婚できるか分からないけれど



家族が出来ても、それなりの暮らしがしたい。

⑱ 今度、期間限定ですが、介護職員処遇改善交付金で、少しでも給料が上がりますよね？

⑲ 知らなかった。財源が違うからかな。

⑳ 少しだけあがるけれど、これでもまだ足りないです。

㉑ 民主党のマニフェストに期待していますが、実現できま

⑳ 政府に期待するのも大切だけれども、皆で立ち上がっていかないと。上から貰うものではなくて、自分たちで勝ち取っていかないと。

㉒ そういう機会に、この「たっぶく」を生かしてあげたら。

㉓ まさにその通り。せっかく、皆で勉強、汗水垂らした青春の場所ですから。生かしましょうよ。

皆さん、貴重な意見ありがとうございます。

㉔ 今回は、参加者が少なかったですが、是非次回は第一線で活躍されている卒業生の皆様の意見をお聞きしたいと思えます。是非と思われ方がいらっしやったら、学校まで一報くださると幸いです。